

2025.10.16



地域日本語支援ニュース こだま 第460号

ともに生きる

～地域で、日本で、そして世界で～



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.htm>

■地域日本語相談から■

地域で活動する日本語支援者のための AJALT 「日本語教育相談」には、各地から様々なご相談をお寄せいただきます。その中のひとつ、ネパールから来日した中学生への文字指導のご相談と回答をご紹介します。

<ご相談内容>

来日後半年のネパール人女子中学2年生。あいうえおの発音がなかなか習得できず、とくに「い」と「え」、「え」と「お」など母音の区別がつかえません。そのため音と文字をつなげることができない状態です。会話は挨拶や自己紹介など上手にできます。文字の形状も覚えているので書くことはできます。ただ音を聞いてそれを書きとると、ほとんど間違っています。このような場合、どのような指導が有効でしょうか。

<回答>

ご相談の生徒さんは母音の区別がつかない様子とのこと、ネパール語の母音はいくつあるか調べてみたところ、二重母音も入れて11もあるんですね。この生徒さんが「い」と「え」、「え」と「お」の区別がつきにくいのも、母語の影響で戸惑いがあるのかもしれません。

https://www.nepali-japanese.com/f_alphabet/alphabet_vowel.html#section1

（ネパール語学習サイト ネパール語の母音）

さて、日本語のひらがな、カタカナは、一文字に一つの音が対応します。

5つの母音「aiueo」に「kstnhmyrw」の子音をつけることで、50音（実際には「n（ん）」を加えて46音）が構成されます。これが50音表です。さらに濁音、拗音、促音※を追加すれば、聞いた音をそのまま表記するだけで、ことばも文も書いてしまうという優（すぐ）れたシステムです。ところが、この生徒さんは、ひらがなを書くことはできるのに、書いた文字と音がつながらずに、聞いた音を正しく書くことができないとのこと。おそらく彼女の頭の中には、文字と音とが散らばっていて、整理ができない状況になっているのでしょう。ここはあせらず、単音から順番に、ゆっくりと音と文字をつなげていくことが大切です。

※濁音（だくおん）：「ざ」「だ」など。拗音（ようおん）：「きゃ」「きゅ」「きょ」など。促音（そくおん）：「きって」「ざっし」などの「っ」で表す「詰まる音」。

◆ 50音表の活用

50音表はとてもシステマチックな並びです。中学生であれば、この並びのルールが分かると思いますので、まずは50音表全体をとらえることから始めましょう。基本となるのは5つの母音からなる1行目です。ここで、指導する人がしっかりと母音を発音してみせてください。それをまねて発音することで、正しい母音の音を体得（たいとく）してもらいましょう。母音の発音が正しくできるようになれば、あとは各行の子音を付け足すだけです。「かきくけこ、さしすせそ…」と1行ずつ縦（たて）に発音しますが、ここで大切なのは、発音しながらその文字を指で押さえることです。どの文字が、どの音に対応しているのか、声を出しながら指さす活動をくり返します。縦に読むことに慣れてきたら、今度は横に「あかさたな」と、やはり一文字ずつ指さしながら発音します。「a段、i段、u段、e段、o段」という感覚をこうやって養っていきます。50音の並びに慣れてきたら、音を聞いて、その文字を指さすことをしてみましょう。

単音の読みに慣れたところで、覚えたことばを50音表で指しながら読むことを始めます。この時は、濁音、拗音の表や小さい「っ」もあるといいですね。表を指して読んだら、それをノートに書きとります。そして、今度はノートに書いたことばを一文字ずつ指さしながら読ませてください。

◆ 単音カードの活用

50音表の中で読めていたひらがなが、それを単音カードで見せると読めないというのはよくあることです。これもスモールステップで進めましょう。まずは、単音カードを2枚選んで、指導者の発音を聞いて、どちらのカードかを

選ばせます。例えば「す」と「む」のカードを見せて「『su』はどっち？」と聞く、という方法です。カードの文字を見ただけでは読む自信がなくても、このように、どちらかのカードを選ぶというやり方であれば、正解する確率は高いし、ゲーム感覚もあります。2枚から次第に枚数を増やしていくと、カルタとりが楽しめるようになります。

単音カードを使った活動は、他にもいろいろあります。手持ちのカードを組み合わせて、できるだけたくさんことばを作ったり、カードを使ってしりとりで挑戦（ちょうせん）したり、そんなときも、大切なのは一音ずつ発音しながらカードを置いていくことです。そうしているうちに、音と文字は次第につながっていくはずですよ。

◆ 「ことばかいだん」

「ことばかいだん」とは、階段状のマス目を使って最初の一文字を決め、同じ文字から始まることばの文字数を一つずつ増やしながら、長いことばを見つけていく遊びです。最初の文字が決まっていますから、ことばが思いつかなければ辞書を引かせてみましょう。詳しい遊び方は以下をご覧ください。

<https://sakutsuba.com/%E3%81%93%E3%81%A8%E3%81%B0%E3%81%8B%E3%81%84%E3%81%A0%E3%82%93%E3%83%97%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%83%88>

（楽しく語彙を増やそう！ ことばかいだんプリント）

スモールステップでここまで積み上げてくれば、自信をもってディクテーションに取り組めるでしょう。漢字にも正しくふりがながふれるようになると思います。これから先の学習をしっかりと積み上げていけるように、ぜひ日本語の土台を築（きず）くサポートをしていただければと思います。

（回答者 宮下しのぶ AJALT 所属日本語教師）
